

2014年（平成26年） 8月 691号

## キリストは世の光

アダム・クジャク.

祭壇に置かれているローソクが燃えていると、私たちはあたたかさを感じます。ローソクが溶けてくると、小さくなりますが、炎はどんどん大きくなります。

キリストはローソクのように私たちを購うために、我が身を溶かし愛の光を放ち、そのお陰で私たちも天国への道がはっきりと見えるようになりました。

キャンプファイヤーも似て、薪をくべなければ、寒くなり暗くなります。同様に心の中で愛の光がなければ、霊的暗闇になり、精神的にも不安定になって時々、生きる目的もわからなくなります。

私たちは愛の光が消えないように、霊的な業と祈り、秘跡、ミサのような霊的薪を心にくべて、心の火を燃やし、保つようにしなければなりません。

私たちの心の中は部屋のようにもあります。長い間窓の掃除をしなければ、部屋の中に光が差し込まず、物が散乱し、部屋の汚さも見えなくなります。

窓を洗い光が射すようになれば、どこに汚さがあるかわかるようになります。

心の魂も同じで、長い時期にゆるしの秘跡を受けなかったり、教会から離れていたりすると、神様の光が入らなくなり霊的な混乱が見えなくなります。

そのとき、神様の光が入るようにするために妨げとなる罪を霊的窓洗いつまりゆるしの秘跡を受けて、霊的な汚さがわかるようになります。

祭壇の上にあるローソクは、信仰の光＝霊的象徴です。受洗のローソクを頂く時に「あなたがたは、キリストの光を、もたらす者となりました。主イエス・キリストが来られる時、すべての聖人とともに喜んで主を迎えることができますよう、いつも光の子として歩みなさい。」と神父様から渡されました。この頂いた賜物に私たちは責任があります。

風の吹く所に置けば、炎は消えてしまいます。信仰の光を消さないように、罪の風を寄せないように、ローソクの炎を揺らがせないように、毎日守らなければなりません。

植物も太陽の光で成長するように、霊魂もイエスの光のお陰で成長できます。ただひたすらに周囲を照らしながら、私たちを光で導く存在であるキリストこそ世の光であり、私たちはその光の子なのです。